

管理・間接部門の生産性向上

論文の主旨

生産性は、付加価値／投入工数で算出される。生産性を向上するためには、分子を大きくする and/or 分母を小さくする必要がある。これまで多くの物づくり企業では、生産現場を中心に投入工数の削減に取り組んできた。

しかしながら、製造部門だけの投入工数を削減するだけでは限界がある。これからは分子である付加価値を高めることにシフトする必要がある。

ものづくり企業における付加価値も製造部門だけでなく、研究開発部門をはじめ、管理・間接部門における生産計画を立案する生産管理部門、部材を調達する購買部門、ものづくりをサポートする生産技術部門などの付加価値によって、社全体の付加価値を最大限に伸ばす可能性をもっている。

その意味で、管理・間接部門の役割・使命である自職場の付加価値を高めることによって、製造部門さらには全社の付加価値を飛躍的に向上するという意味で極めて重要な役割を担っている。

ここでは、生産性を向上する 2Way・4Pattern を提唱する。上記で述べた①付加価値（分子）を高めるアプローチと②投入工数（分母）を削減するアプローチと、a）自職場の直接的に付加価値を高める、b）他職場（全社）へ間接的に高める付加価値の4パターンとなる。

本論文では、2Way・4Pattern に基づいて、管理・間接部門における投入工数低減の進め方、および付加価値向上の進め方とそれらの成果事例を紹介する。

発表者の紹介

氏 名	佐藤 直樹 主席コンサルタント 東京事業部 経営革新コンサルティング部
専門分野	VM（見える経営・見える管理）活動の推進 FMS（フレキシブル生産システム）の管理・改善 管理・間接部門の管理・改善
コンサルティング歴	自動車部品製造業、化学工業、機械器具製造業、プラスチック製品製造などを中心に多数の企業の企業体質革新を支援